

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第634号 2022年12月11日

「主の降誕」の時を迎えて

主任司祭 ミカエル鈴木 真

今年も待降節に入りました。毎年この季節を迎えると考えてしまうのが、「クリスマス」という言葉です。ご存じかもしれませんが、「クリスマス」とは Christ mass つまり「キリストのミサ」という意味です。キリストのミサ？そもそもミサはキリストの受難と復活の記念。果たしてキリストでないミサなんかあるのか？…などといろいろ考えちゃいます。さらに、わたしたちは「クリスマスミサ」とか「クリスマスのミサ」とか言っちゃいますが、これは言葉の意味からすると「キリストのミサミサ」になっちゃいますよね。今や「クリスマス」という名称は世界中に広まって、その由来もよくわからないんですが、キリスト教国には、それぞれの言語で「降誕」を表す言葉で呼ばれていました。例えばフランス語の「ノエル」、イタリア語の「ナターレ」など。日本のカトリック教会での正式名称は「主の降誕」です。なので、なるべくこっちを使おうと思っただけでも、つい「クリスマス」「クリスマスのミサ」と言っちゃいます…よね。

横浜雙葉学園でも、毎年中高、小学校それぞれで、一足早く「主の降誕」のミサを全校でささげています。小学校のミサでは、説教の時に毎回絵本を使うんですが、何十年もやっているうちにネタ切れになってきました。初めのうちはバレないだろう…と3年くらい前に使った絵本を読んだりしてまし

たが、子どもたちはよく覚えていて「それ、前に聞いた」とか言われちゃうので、考えた末、10年位前から6冊の絵本をローテーションで使うことにしました。こうすれば、一人の子どもが卒業するまで、違う絵本が聞ける！というわけです。そんなわけで長年の間、さまざまなクリスマス物の（また使っちゃった！）絵本を集めました。が、「主の降誕」にまつわる話は、本当にいいものがたくさんあることに気づかされました。よくあるパターンは、貧しい人がイエスさまに贈り物をしようとして、でも何にも持っていないので、せめてもと、みすぼらしい何かをおささげすると、それを神さまがすばらしいものに変えてくださる…というものです。あるいは、ディケンズの「クリスマス・キャロル」のように、イエス・キリストの「キ」の字も出てこないけど、「主の降誕」を祝う時には、誰もが誰かを喜ばせようという気持ちになる…という話。2000年の間にいろんな福音的な物語が生まれていったのも、イエスというお方が世に来られた、ということを通して、神さまがなさったわざ、言わば人類に対する「プレゼント」に他ならないのでしょう。

今年も「主の降誕」を祝うにあたって、お互いに、誰かを喜ばせることができれば…と思います。

